

第37回政府現地対策本部会議、第41回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年6月21日（火） 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

(別途気象台から報告)

2 被害の状況

- (1) 人的被害について、前回の本部会議の報告から変更なし。
- (2) 住家被害の状況について、全壊、半壊、一部破損合計145,905棟。
- (3) 避難の状況について、19市町村、108ヶ所の避難所において、5,503人の方が避難されている。
- (4) 避難指示等の発令状況について、避難指示が6市町、避難勧告が14市町村で発令中。大雨による発令含む。
- (5) 罹災証明書の状況について、受付件数が35市町村で152,710件、2次調査依頼件数が28市町村で28,140件、交付件数が34市町村で113,957件。
- (6) 大雨による被害の状況
  - 人的被害 死者4名、不明者2名、重傷者1名。
  - 家屋被害 全壊2棟、床上浸水128棟、床下浸水419棟、一部破損3棟、未確定が1棟。まだ報告が上がっていないものもある。
- (7) 6月19日からの大雨による家屋の被害等で怪我等をされた方の救命・救助状況  
死亡者が、熊本市2名、宇土市1名、甲佐町1名、上天草1名、合計5名。うち、熊本市の1名については、報告が県に来ていないため、15ページの表では、不明としてカウントされている。
- (8) 孤立地域状況
  - 南阿蘇村立野、長野、御船町水越の3件については、いずれも既に孤立が解消。
  - 甲佐町小鹿地区他については、透析患者さんが3名いらっしやっただため、ヘリにて搬送が完了。
  - その他の方については、水、電気、通信は確保できており、要救助者はいない。
  - 明日には町道が開通して、孤立が解消する予定。
- (9) 河川の決壊状況
  - 益城町赤井地区において、木山川の堤防が決壊している。周辺の田が広範囲にわたり浸水している状況。人的被害の報告はない。県において、現在復旧作業中。

### 3 県等の対応状況

#### (総務部)

大雨の被害状況であるが、私立学校休校・被害確認状況についてまとめている。私立高校について、休校2校、始業遅れが3校。中学校については休校3校。被害の報告はない。

私立幼稚園について、休園は0園、自由登園4園、被害ありについては、漏電や落雷による機器の故障などで3園が被害あり。

大雨による県庁舎等の被害について、県庁舎あるいは宿舎に雨漏りの被害が出ている。

#### (企画振興部)

交通機関の運行状況であるが、鉄道関係でJR九州三角線が運転を見合わせている。バスの関係では、路線バスの一部区間、高速バスの熊本～宮崎、熊本～鹿児島の間において運転を見合わせている。航空機、フェリーの関係は通常運航となっている。

#### (健康福祉部)

大雨の関係では、人的被害の報告なし。物的被害では、土砂崩れ、床上浸水、雨漏り等の被害が出ている状況。

次に、地震に関して、DPATの要請について、6月21日から、九州各県のDPATから本県だけの熊本DPATが活動を始めている。

被災者生活再建支援法の適用について、現在、申請書の受付件数が3千件を超えている状況。

被災後の子ども相談について、6月26日に九州ルーテル学院大学で、被災後の対応等についてのセミナーを開催することとしている。

義援金について、21日現在で217億円の義援金が寄せられている。

生活福祉資金の貸付について、従来、緊急小口資金貸付の特例措置をとっていたが、6月20日から福祉費の特例措置に切り替えている。

建設に着手した仮設住宅について、16市町村、71団地、3,115戸の着工という状況。

#### (環境生活部)

本日6月21日、「熊本県災害廃棄物処理実行計画」を策定し、本日、井上環境副大臣が来られたので、知事の方から手渡しを行った。

災害廃棄物の発生量をこれまで100万から130万トンとしていたが、罹災証明書の発行等の状況により195万トンと推計を上方修正している。また、再生利用率70%以上を目指すなどの処理計画を作っている。

水道施設の被害状況について、地震によるものは大きくは変わっていない。大雨による被害については、美里町の砥用地区を始めとして、7市町村で水道管の破損等により断水などしている。給水車による応援等の手配の調整をしている。1,000戸程が断

水している状況。

(農林水産部)

前回、5月13日に第3報ということで1,345億円ということで地震被害額を出しているが、今回、第4報となる。被害額が1,487億円という数字に膨らんでいる。プラス142億円の増額。

ほぼ、農地等の災害については把握が終わっているが、農業用施設、林業、水産関係について不確定な要素がありまだまだ増えるものと思っている。

雨の被害については、山腹崩壊による人的被害が出ている箇所もある。その他、農地については、まだ冠水等の状況で甚大な被害の報告は上がっていない。

(土木部)

河川に関して、18河川45カ所において護岸の崩壊等がある。また、木山川の1カ所で堤防が決壊している。これについては、国土交通省の投光器をお願いしており、今夜、夜間工事して可能な限り早く復旧することで進めている。

道路の交通止めについては、朝の時点より、全止めが40カ所、方止めが12カ所ということでかなり増えている。

流木、土砂が流れてきており、熊本港、百貫港に山から来た木が漂着したりしている。

土砂災害が分かっているところで9カ所ある。

(教育庁)

県内各学校の休校状況について、休校・休園が30校、始業遅れが19校、一部出席停止が2校、授業打ち切りが1校。

また、小中学校で浸水や法面の崩落がある。

(企業局)

企業局で所管している発電施設、ダム、工業用水と県営駐車場について、一部被害が出ている。大きな被害はあっていない。

(県警本部)

被災地における防犯パトロール、避難所等における相談、防犯対策等を行っている。

また、昨夜からの雨については、要救助者の救助活動を行っている。

#### 4 国等の対応状況

(気象庁)

地震活動については、14日以降、余震は10回未満で経過している。ただ、18日に震度4が1回、20日に震度3が1回とまだ少し大きな余震が発生する状況が続いているので、引き続き余震活動には注意が必要。

天気の見通しについて、今日から明日にかけては警報を発表する可能性が高い。18日から21日までに降った雨量を見ると、県内広い範囲で200ミリを超えており、多いところでは400ミリを超える雨が降っている。今日の18時から明日の18時まで

100ミリから150ミリの雨を予想している。ただし、たとえ激しい雨が降らなくても18日以降多量の雨が降っているので、10ミリ、20ミリ程度の雨で大雨警報、土砂災害警戒情報等を発表することもあるので、雨の降り方には注意していただきたい。

明後日23日は、梅雨前線がやや南下するという予想をしているが、前線の動きによっては雨が降ることも考えられるので、雨の降り方には注意が必要。

今週一週間では、25日の土曜日ぐらいまでは梅雨前線の影響で雨が降る可能性があると考えている。气象台では、最新の情報を提供するので、ホームページも含めてそういう情報を利用していただければと考えている。

(厚生労働省)

医療施設の被害については現時点で報告なし。

水道の被害について、美里町や南阿蘇村などで大規模な断水が見られる。

応急給水の状況について、美里町から県に給水車の応援要請があっている。

社会福祉施設の被害状況について、宇土市の高齢者施設で床上浸水の報告があった。

(九州地方整備局)

直轄河川について、氾濫危険水位を一時期超過していたが、13時10分時点においては、それを下回って水防団待機水位まで下がっている。

直轄国道の通行止めについて、国道57号、大津町の瀬田で土砂の流出によって2時から全面通行止めになっている。現在、鋭意、土砂の撤去中であるが、通行止めの解除については、今のところ不明。

宇城市の三角町の箇所については、倒木と土砂の流出で1時25分から全面通行止めとしていた。現在、8時30分から片側交互通行に移行しており、12時をもって通行止めを全面解除している。

次に、国土交通省の対応であるが、情報連絡員ということでリエゾン（職員）を県及び4市町村に派遣している。

排水ポンプ車であるが、6台派遣しており、全て撤収を終わっている。現在は、熊本河川国道事務所の緑川下流出張所に4台、立野ダム工事事務所に2台待機させている。

(国土地理院)

国土地理院では、災害復旧のための地理空間情報の整備として、地震発生後に撮影した空中写真を用いて、現況を正確に反映した地図、応急復旧対策基図とその地図と全く同一の範囲の写真図、応急復旧対策写真図を整備していく。

整備した成果については、地方公共団体等へ提供していく。

応急復旧対策基図については、地球の地形の変化や仮設住宅建設などの復旧対策上、有用と思われるものを反映した地図となる。

また、応急復旧対策写真図は、地図と重ね合わせができるオルソ画像を用いている。そのオルソ画像の上に等高線や公共施設名、地名等を描画した写真図ということにな

る。

縮尺は両方とも2万5千分の1。今後の提供スケジュールとしては、応急復旧対策基図については、迅速版として8月から随時提供を行い、正式版を12月末までに提供する予定。応急復旧対策写真図については、迅速版を7月より随時提供開始を予定しており、正式版は9月末までに提供する予定。

整備範囲は、嘉島町、熊本市から北東方向の阿蘇市、南阿蘇村にかかる範囲となる。  
(経済産業省)

電力関係で、南阿蘇村の立野地区については、主要な道路が土砂崩れ等で進入できないため、被害状況が確認できていない状況。

主な設備被害については、黒川第一発電所が通信機械室の浸水に伴い遠隔監視等が困難な状況になっている。配電設備では、がけ崩れ、樹木の倒木、雷等による断線等が多数発生している。ガス、高圧ガス、鉱山その他は特に被害報告なし。

(農林水産省)

現在のところ、ため池等の被害の情報は入っていない。

(環境省)

特段の報告事項はない。

地震、大雨に係る情報収集に努めているところ。

(総務省)

通信関係で固定電話について被害情報なし。

ドコモ関係でエリアカバー状況確認中。

KDDIは他の基地局からカバーされており影響なし。

ソフトバンクについては被害なし。

UQコミュニケーションについてはエリアカバー状況について確認中。

顧客等からの苦情等もない。

(文部科学省)

特になし。

## 5 現地災害対策本部長の発言

(内閣府・緒方審議官)

熊本の梅雨においても終盤に入ってきて、強い雨に警戒が必要な時期に入ってきた。

特に、昨晩来、数年に一度の記録的な大雨となっており、大きな被害が県内にも出てきている。まずもって、お亡くなりになった方の御冥福をお祈り申し上げるとともに被災された皆様に対してお見舞いを申し上げたい。

今夜から明日にかけても、また、強い雨が降る状況もあり、今後とも気象情報に注意し、避難勧告が出ている地域においては避難行動をとっていただきたい。また、関係機関においては、応急対応についてよろしくお願ひしたい。

なお、政府の対応であるが、本日、11時から関係省庁の災害対策会議、今回の大雨に関する災害対策会議を開催した。特に今回は、河野大臣にもお越しいただき、各省庁に対し、被害状況の把握に努めるとともに、政府として万全の態勢をとっていくといった指示も出ている。

地震の関係であるが、罹災証明についても、雨といった状況の中であるが、進んで行っており、応急仮設住宅についても完成したところから順次入居が始まっている状況。住まいの確保、被災された方々の支援について、引き続き政府としてもしっかり取り組んでいきたい。

また、先日、県におかれては、熊本復旧・復興有識者会議からの提言を出され、また、昨日は、県におかれて復旧・復興本部会議も開催され、復旧復興プランを今後策定されていく状況。

政府としても県としっかりと連携を取り、これまで同様にチーム熊本として熊本の復旧復興への支援に取り組んでいきたい。

## 6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

昨夜からの記録的な大雨により、県内各地で土砂崩壊が発生し、4名の方が犠牲となられた。また、堤防決壊も発生するなど、被害が広がりつつある。

未曾有の大災害から、少しずつ立ち直りつつある我々に、再び大きな試練が降りかかった。

現在、雨は一旦小康状態となっているが、今夜から明日にかけて再び大雨が予想されている。これ以上犠牲者を増やさぬよう、危機感を持って、県民への予防的避難の呼びかけや、応急的な対応を行ってほしい。

このような大雨や熊本地震といった苦難に直面しつつも、我々は前に進まなければならない。

去る6月19日に、「くまもと復旧・復興有識者会議」から、提言書を提出いただき、20日には、私を本部長とする、「平成28年熊本地震復旧・復興本部」を設置した。

今後は、有識者会議からの提言を踏まえ、7月末頃までに復旧・復興プランの全体像を公表する。その後、9月中を目途により詳細な復旧・復興プランを公表したいと考えている。

まだまだ復興への取組みは始まったばかりだが、「チームくまもと」として、一丸となって頑張っていきたいと思う。皆様方のご協力をよろしくお願いします。

(以上)